



日本台湾交流協会では、日台文化交流に有意義な催しに助成・名義を付与する形で協力しています。ここでは、目黒リコーダーオーケストラが台北リコーダーオーケストラとジョイントコンサートを行った様子をお伝え致します。

日台の老若男女になじみの深い楽器による双方の音楽性を取り入れた演奏は、台湾のお客様にも楽しんでいただけました日台の団員同士の絆も深まったようです。

私たちは、目黒リコーダーオーケストラ（以下、MRO）という、リコーダーだけで編成されたアマチュアのオーケストラです。

MRO は、2018 年秋に台湾の台北リコーダーオーケストラ（以下、TRO）とのジョイントコンサートを日本（9月16日）と台湾（10月7日）で行いました。ジョイントコンサートを開催するにあたり、日本台湾交流協会に後援と助成の申請をし、ご快諾いただいたことで、無事公演の成功を収めることができました。このたびの日本交流協会のご支援、ご協力に深く感謝いたします。

### ■助成金をいただくまでのこと

MRO は、広くリコーダーオーケストラの魅力を伝えたいとの思いから、結成当時より無料のコンサートを実施しており、今回も海外遠征費を含む全てを団員による自費での企画となりました。

特に今回は、初めての海外での演奏、たくさんの大きな楽器を含む 50 名ほどの大人数での移動ということから、旅行会社にツアーを委託し、団員の出費は多大な金額になることが予想されました。

そのような中、ホームページで日本台湾交流協会の存在を知り、コンサートの 1 年前となる 2017

年 11 月に何も分からないままに電話でお話しを伺ったところ、申請の時期や方法を詳しくご説明いただきました。

あらためて、翌 2018 年 3 月に MRO の副会長と広報担当者が本部に出向き、直接お話をお伺いしましたが、持参した私たちの過去のコンサートチラシやプログラム、写真を見て MRO の活動に興味を示して下さい、後援依頼の件や助成申請について懇切丁寧にご指示いただけたことは大変有り難いことでした。



スイス・ペッツォルト社のコントラバスリコーダーがデザインされたおしゃれなコンサートチラシ

## ■ MRO の紹介

台湾公演の活動報告の前に、MRO の紹介をさせていただきます。MRO の発足は、10 年前の 2009 年。東京都目黒区が主催したアートウィークで「リコーダーオーケストラをつくろう」という講座に集まったメンバーが中心となって結成されました。ふだんは月に一度、おもに目黒区内の施設で練習しています。コンサート前は集中練習やパート練習もあります。また、年 1 回、合宿をして集中練習をし、メンバー同士の親睦を深めています。

演奏活動としては 2010 年 4 月に、東京都中央区晴海の第一生命ホールで第 1 回コンサートを開催して以降、1 年半ごとに定期演奏会を行っているほか、目黒区音楽祭出演、東京清瀬市のけやきホールでの演奏など活動の場を広げています。

60 名もの MRO メンバーを支えているのが執行部です。会長、副会長をはじめ、会計、広報、ライブラリアン、会場係など、さまざまな役割をメンバーで担っています。時には、練習後に数時間にわたり話し合いをすることもあります。アマチュアの団体ですので、運営費はメンバーからの会費でまかっています。

リコーダーは日本では小学校の音楽の授業で取り入れられているため馴染みがあり、大人になってからも気軽に演奏を楽しめる楽器ですが、60 名の大人数で、定期的に活動を行っている団体は世界でもあまり例がありません。

MRO の指揮・指導をしてくださっているのは、リコーダー奏者の松浦孝成先生です。先生は MRO 指導のほか、大阪や東京の清瀬でもリコーダーオーケストラの指導をしています。また、日本各地で講座を持ち、演奏活動も行っている気鋭の奏者です。

MRO における松浦先生のご指導では、練習の

はじめに音合わせをします。MRO で使われているリコーダーは、10 種類。ソプラノ、アルト、テナー、バス。グレートバス、コントラバスを中心に、曲によってはソプラノより高い音のクライネソプラニーノ、ソプラニーノ、コントラバスより音が低いサブグレートバス、サブコントラバスです。これら全体、または、パートごとに音を出し、微妙な音の違いを先生が指摘してくださり、わずかな高低差を調整していきます。

音が整ったら曲の練習が始まります。リコーダーに限らず楽器はみなそうですが、ただ演奏できるというだけでは“音楽”にはなりません。楽譜に記載されている記号に沿い、アーティキュレーションをそろえていく必要があります。音符や休符ひとつにしても、同じパートの全員が同じ長さにする、また旋律の捉え方やブレスのタイミングを合わせる事が大切です。松浦先生の指導はそういった細かいところまで行き届き、ひとつの楽曲が“音楽”になるよう導いてくださいます。こうした先生のご指導のおかげで、MRO の演奏は日々成長を続けています。

## ■ ジョイントコンサート開催まで

松浦先生から MRO に TRO とのジョイントコンサートの話があったのは 2 年前の 2017 年。



劉永泰先生と松浦孝成先生

TROの指導をしている劉永泰先生からのお申し出がきっかけでした。劉先生は、17年前に当時松浦先生が所属していた東京リコーダーオーケストラが台湾の台北アリーナでコンサートを行った時にサポートして下さった関係で、松浦先生とは旧知の間柄。当初は松浦先生が主催する大坂のリコーダーオーケストラレッスンの講座にお話があったのですが、大阪のオケは定期的な活動ではなかったため、松浦先生がMROに話をもって下さったのです。そのお話をいただいたとき、MROメンバーは驚きと喜びと戸惑いと、さまざまな気持ちが渦巻いていたように思います。そのときは本当に実現するかどうかもわからないままのスタートでしたが、執行部と松浦先生で話し合いを重ね、東京・台湾公演の日程・会場が決まると、いろいろなことが動き始めました。

東京公演と台湾公演の間が1か月弱でしたので、2公演分の事務仕事が執行部に集中しました。TROとの連絡は英語が堪能なメンバーが務めました。決めなくてはならないことが多く、大変だったと思います。東京公演では、TROを迎える側として、練習会場の手配や交通、宿泊の案内、食事の手配、当日のリハーサルから本番、その後のレセプションまでのスケジュールリングなど、細かいことを何度も話し合いを重ねて決めていきまし



台湾公演の会場となった新荘文化藝術センター

た。また、2018年1月に劉先生が台湾から視察にお出でになり、MROからも7月に会長と松浦先生が台湾に行き、視察や打ち合わせも行いました。

#### ■東京公演後、いよいよ台湾公演へ

東京公演の前日、9月15日にTROメンバーが来日。リハーサルが初顔合わせでしたが、TROメンバーが明るくフレンドリーに接して下さったおかげでみなすぐに打ち解け、楽しく練習を終えて、本番に臨むことができました。演奏会後のレセプションも、身振り手振りをしながらの会話もあって大いに盛り上がり、次の台湾での成功を誓ったのでした。



台湾公演の様子。TROとMROが合同演奏



この東京公演では、演奏後に劉先生が北海道胆振東部地震（2018年9月6日に発生）で被災された方々に心を痛めていることを語り、松浦先生とともに、会場で販売されたCD等の売上金全額を義捐金としてご寄付くださいました。両先生のお心遣いに感謝したいと思います。

さて、いよいよ台湾に出発です。MROメンバーが羽田空港に集合したのは10月6日の早朝。旅行会社に委託したとはいえ、グレートバスやコントラバスといった大型楽器の梱包、搬入、荷物の手続きなどもすべてメンバーが行いました。このとき持っていった大型楽器は13本。空港の大型カート2台分もありました。

台北の松山空港に着き、休む間もなく手配してあったバス2台に乗り、リハーサル会場へ。ここでは、TROのみなさんがあたたかく迎えてくださり、旅の疲れも吹き飛びました。

台湾公演当日、バスで会場まで向かうとTROメンバーはすでに私たちを迎える準備を整え、笑顔で出迎えてくれました。控室や通路など細やかに教えてくださり、ボリュームたっぷりのランチの用意してくださり、安心して本番に臨むことができました。

公演のプログラムは、劉先生と松浦先生で一つのテーマとしてお互いの文化や根にあるリズムやメロディーを取り入れるということ話をしていた



ホワイトボードに歓迎のメッセージ



台湾公演の演奏曲

とのことで、「祭り」のタイトルが入った曲がそれぞれに並びました。距離的にそれほど遠くないのに、どちらも島国ということもあり、雰囲気が違う「祭り」が奏でられたと思います。

台湾のお客さまはとてもマナーがよく、演奏が始まる前も客席は静まり返っていたため、お客さまが入っているのかと不安になるほどでした。そして演奏が始まると熱心に耳を傾けてくださり、リコーダーに対する情熱が伝わってきて、気持ちよく演奏することができました。アンコールでは台湾で馴染みのある『快樂の出帆』を演奏しましたが、劉先生が曲名を口にしたとたん、客席から大きな拍手がわき上がり、調子良く、楽しく演奏を終えました。お客さまはTROとMROそれぞれの演奏を楽しんでくださったことと思います。そして、「音楽に国境はなく、素晴らしいものは素晴らしい」という感想もいただきました。

## ■公演終了後のこと

台湾公演も無事に終わり、今度はこちらがもてなされる側でレセプションに参加しました。会場となったレストランでは、乾杯の前にサプライズ



レセプションで記念撮影

でプロモーションビデオの上映がありました。映像には、TROメンバーの東京到着からリハーサル、東京公演本番、さらに台湾公演のリハーサルから公演までの様子が映し出されていました。バックミュージックは公演時の演奏曲。それを見て、大きい事を成し遂げた実感が湧き、熱いものがこみ上げてきました。そのプロモーションビデオはTROメンバーが作成したものとのことで、メンバーの多才さにも感嘆したものです。

レセプションで用意されたお料理は、どれも美しく、そしておいしく、なによりボリュームたっぷり。すでに親睦を深めていたメンバー同士、会話もはずみ、サインを求めたり、LINEのアドレスを交換したり。みな笑顔&笑顔で、さらに交流を深めることができました。そのときの記念撮影は、忘れることはないでしょう。

レセプション後は、台北101ビル、夜市などに観光にいったグループ

や、ライトアップされた橋などを見に行ったグループもあり、それぞれに台湾の雰囲気を楽しんでいました。

移動とリハーサル、公演を2泊3日の強行スケジュールで行ったため、観光は最終日の午前中のみになってしまいましたが、バスで忠烈祠、中正記念堂をまわることができました。バスで移動し



忠烈祠にて。兵隊さんの交代の様子を見学しました



十分にて。ランタンでコンサート成功のお礼をしました



ている間、通訳の方から台湾内の情勢や歴史の話などをご説明いただき、メンバーの交流だけでは知りえなかったさまざまなことがわかり、大変参考になりました。

最後に土産店に寄って、昼前に松山空港に到着。初の海外公演成功の喜びを胸に、MRO メンバーは帰国しました。

今回、この公演を後援・助成していただいたことで、日本在住の台湾の方からのコンサートへの問い合わせもあり、幅広い方々に知っていただくことができました。それは、さらに良いコンサートをして、より多くの方々に喜んでいただきたいという指揮者、MRO メンバーの士気を上げることにつながり、コンサートまでの練習・本番も大変活気のある有意義なものとなりました。

また、メンバー同士の交流が生まれ、かけがえない友情が生まれました。コンサートの大成功もうれしいことでしたが、音楽を通して日本と台湾の交流ができたことが、何より貴重な体験となりました。

あらためまして、このたびの日本台湾交流協会のご支援、ご協力に深く感謝いたしますとともに、

今後もさまざまな形で交流を続けて参りたいと思います。

目黒リコーダーオーケストラ  
広報担当

## ■ MRO の今後の活動

2020年、東京オリンピック開催前の5月10日に第一生命ホールで第7回コンサートを開催予定です。チケット予約などの詳細は未定ですが、決まり次第、ホームページやフェイスブックで紹介させていただきます。また、YouTubeにこれまでのコンサートの様子がアップされていますので、こちらをご覧ください。

MROは、これからも多くの方々にリコーダーオーケストラの魅力と楽しさを伝えられるよう練習に励んでまいりますので、今後とも応援どうぞよろしくお願いいたします。

目黒リコーダーオーケストラ

HP : <http://mrecorder.web.fc2.com>

FB : Meguro Recorder Orchestra

YT : <https://www.youtube.com/user/RecorderOrchestra>



2020年5月10日 第7回コンサートでお会いしましょう！